

特集

COVID-19 に対する 産婦人科医療の対策

企画者のことば

末岡 浩*

未曾有の新型コロナウイルスの感染拡大と医療崩壊の危機という、終わりのみえない状況は現在なお続いています。第2波、第3波と感染者数もなお増加の方向にあります。その一方で、医療に携わる人々の努力と経験から、感染者数は増加しても死亡率は減少しつつあります。感染者や重症者、死亡者が桁違いに多い諸外国と比較してもわが国の医療の優位性を感じることも事実です。

しかしながら、未知の感染源への対応は大きな困難との戦いです。いつかは解決策を得られる日がくるという希望をもって業務に励んでいる医療者にとって、自身の危険を背に感じながらも人道的な見地と強い意志で立ち向かう勇氣ある行動は称賛に値します。言い換えれば、医療者の熱意を試されているといってよいのかもしれません。

このような危機への対策として、このウイルスの科学的な解明やワクチン開発、治療薬の開発など、世界中の叡知が集まり急ピッチで研究

が進められています。ここで人類が学ばなくてはならないことは、今回のような歴史的な試練はこのウイルスに限らず、国境を越え、いつでも再現されることがありうるということです。新たな生命を守り、家族を守るために、産婦人科診療もとどまることなく、前進しなくてはなりません。新型コロナウイルス対策を通じて、予見できなかった感染症への初期的対応や各医療分野、特に疾患や病態別の対応など、多面的な経験を忘れずに、貴重な経験を記録として残しておくことは今しかできないことかもしれません。わが国の取り組みのみならず、同じように経験し、対応してきた海外の事情や対応についても学ぶ点が多いに違いないと思います。

本特集では、これまでの経験や医療体制への取り組みなどを取り上げ、今後のために闘いの記録として問題点を抽出し、対応策の成功や反省を特集するべく企画しました。貴重な座右の書としてくまなく読んでいただきたいと考えます。

* Kou Sueoka 慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センター